

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	(ア) 地域住民の生活基盤の安定と生命安全の確保 (イ) 不発弾処理技術の向上による犠牲者の減少
(2) 事業内容	(ア) 不発弾処理活動 UXO Lao-ATP の6個処理チームと協同で不発弾処理活動を実施している。 (イ) 技術移譲 (a) 不発弾処理技術移譲 不発弾処理現場を教育の場として、実技(OJT)での指導に重点を置いて UXO Lao-ATP の処理チームを主対象に実施している。特に、随行指導として、要請により山中で見つかる不発弾処理について、隊員と一緒に行動しつつ指導した。 (b) 啓蒙教育技術移譲 UXO Lao-ATP 啓蒙チームを対象として、学科(計画教育)と実技(OJT)にて啓蒙教育技術移譲を実施している。
(3) 達成された効果	(ア) 不発弾処理 不発弾処理汚染地域の処理により、処理目標 107ha のうち 40.9ha(38%)を安全化し、住民の生活の安定、教育環境や生活環境の改善を図った(別紙1)。また、随行指導により、大型爆弾X5、クラスター子弾X186、砲弾等X7を安全化し、地域の環境改善に寄与した(別紙3)。 (イ) 技術移譲 (a) 不発弾処理技術移譲 UXO Lao-ATP 隊員が、JMAS 専門家の不発弾処理技術を修得し、不発弾処理を安全かつ効率的に実施し得る基盤を構築するため、年間計画を作成(別紙2)し実施しているが、年間計画回数166回に対し実施回数67回(40%)終了した。合わせて、UXO Lao 全体に対する不発弾処理技術移譲の基盤を構築するため、ATP 県同様に、大型爆弾等が多く発見されている南部2県(セーコン県・サラワン県)の UXO Lao 隊員、及び UXO Lao 全体の教育を行っているトレーニング・センターの教官等への研修を12月19日から21日にかけて実施し、UXO Lao 全体に対してJMAS専門家の技術の普及に努めた(別紙3)。 (b) 啓蒙教育技術移譲 JMAS 専門家が、UXO Lao-ATP の啓蒙チームに啓蒙教育技術を指導した。年間計画回数35回に対し実施回数9回(26%)とやや少なかったが後半に重点的に実施したい。特に、地域で発見される不発弾の特徴と危険部位の教育を始めとし、プロジェクターの有効な使用方法、パソコンへの資料の有効・効率的な取り込み方法、ソフトプログラムパワーポイントを使った教育方法(例示)などについて指導を行なった(別紙2)。

<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>(ア) 不発弾処理 このままの推移でいけば不発弾処理汚染地域の処理面積目標 107ha の処理は実施でき、住民の生活の安定、教育環境や生活環境の改善に貢献出来る見込みである。</p> <p>(イ) 技術移譲 (a) 不発弾処理技術移譲 引き続き年度の教育実施計画に基づき実施するとともに、事業の終末に不発弾処理技術判定を行い、UXOLao-ATP 隊員の不発弾処理技術の習得度を確認する。また、引き続き南部 2 県(セーコン県・サラワン県)の UXO Lao 隊員、及び UXO Lao 全体の教育を行っているトレーニング・センターの教官への研修を実施し、UXOLao 全体に対する不発弾処理技術移譲の基盤を構築する。</p> <p>(b) 啓蒙教育技術移譲 引き続き年度の教育実施計画に基づき実施するとともに、事業の終末に啓蒙教育技術判定を行い、啓蒙隊員の習得度を確認する。</p>
-------------------	---